

# 市民俳歌柳壇

応募方法が  
変わります!

◎俳歌柳壇 応募方法 1人各3句(首)以内。対象は市内在住の人で、未発表作品。はがき表面に、住所・氏名・ふりがな・応募する壇名・裏面に、作品(漢字にはふりがなも)・作品への思いを書き、毎月20日までに、〒320-8540 市役所広報広聴課 ☎(632) 202028へ。俳句・短歌・川柳の併記は不可。新たにウェブによる応募も受け付けます。詳しくは、1ページをご覧ください。

## 柳壇 佐藤隆久 選

◎選評 愚痴を聞き始めたらかなかなか途中で止めることは出来ない。まして友達の場合はなおさらである。火にかけた鍋の煮崩れはないか、味が染み込み過ぎないか気に掛かる。だが愚痴は続きそうだ。そんな日常の「コマ」を捉えた感性に感心させられる。

電気代高騰知らぬ引き落とし  
西川田一丁目 武藤 隆夫

ランドセル試し歩きの通学路  
清原台4丁目 水上 義明

やせすぎの着ぶくれ見映えちよつと良し  
上金井町 斉藤 公子

初売りのチラシに負けてムダを買い  
陽東3丁目 伊澤 秀夫

## 歌壇 安野登美子 選

◎選評 早春の露の根茎から生え出る露の薑に、「春の香り一つください」と所望する上の句。「出世払ひ」とは借金返済期限を借主が将来出世したときに決める意味。「私が確」と短歌を学び一人前になった折に、短歌にてお礼致します。「お願いします」と解した。露の薑との会話の詩情が満ちあふれ、露の薑の香りとほろ苦さを彷彿とさせる一首である。

春の香り一つください露の薑  
●西原2丁目 久保川 賢一

寒椿こな雪ハラリ顔うづむ  
岩曾町 川室 正男

今宵の月は花に譲りぬ  
下荒針町 石川 幸子

細き枝先小さき芽の見ゆ  
細き枝先小さき芽の見ゆ

暖かや辺りにわかには春めいて  
木漏れ日受けて三極の咲く

針ヶ谷一丁目 糟屋 宮子

## 俳壇 加茂都紀女 選

◎選評 現在、鶏卵は各家庭の完全食品に近く、特に寒中のもは栄養も豊富で味も良いとのこと。作者は今、生みだての寒卵をつるりと飲んで、始まる持久走のスタートラインに。その時の高鳴る気持ちと、頑張れるという優位に満ちた思いがこの一句から伝わって来る。特に「持久走」が寒中の大勢の走者の景を感じさせている。

寒卵飲んで優位の持久走  
●緑2丁目 片嶋 青水

しまりなき顔して春の雪だるま  
さつき3丁目 永島 健一

病名を告げられ仰ぐ梅の花  
平松本町 伊藤 安

桃色に色つけたしや春の風  
中岡本町 中沢 智子

鳶職の見え隠する春日かな  
西2丁目 佐藤 順子

## 柳壇

荒井 宗明 選

準大賞 大賞

寒卵二個つつましき朝の膳  
東埜田2丁目 渡辺 眞左

よく見れば軍手にもある右左  
東横田町 中村 俊一

母の好きだった山茶花見て飽かず  
花園町 小林 秀行

## 歌壇

安野 登美子 選

準大賞 大賞

いつせいに初夏の風受け白薔薇の  
優しく揺れて棘を隠せり  
下田原町 五十嵐 由美子

夕暮に寄り添ふ桜のほそき枝網目もやうの切り絵をつくる  
下田原町 和田 文男

散り紅葉風のかたち誘はれ湖畔につづく緩き傾斜へ  
平出町 田村 成夫

## 俳壇

星田 一草 選

準大賞 大賞

温もりを抱いて家路へ寒卵  
築瀬4丁目 升也 幸子

桜咲く今朝の散歩はCコース  
野沢町 渡辺 明広

空蟬や力を入れしままの脚  
茂原3丁目 原田 正雄

## 市民俳歌柳壇 令和4年度年間賞

令和4年4月号〜令和5年3月号の「市民俳歌柳壇」コーナーに掲載した作品の中から、左の通り、優れた作品が「年間賞」として選ばれました(敬称略)。

入賞者には、後日、記念品をお送りします。

☎広報広聴課 ☎(632) 202028